

第14回 法人会全国女性フォーラム「富山大会」に参加して

安芸法人会 岩城未知子

会場である富山に向かったのは、フォーラム開催当日の4月25日（木）、高知空港7:35の始発便でした。

私達、安芸法人会からは、私を含めて3名が参加させて頂きました。

羽田空港で、飛行機を乗り継いで、目的地の富山市に到着したのは、午前11時頃でした。この日の富山は、曇り空から時々雨のパラつく空模様であった。同じ高知から参加した半数位の女性陣は、東京駅より北陸新幹線を乗り継ぎして、富山へ来られたようであった。

会場となった富山産業展示館（テクノホール）は、市、中心部より少し離れた場所にあり、私達はとりあえず荷物を市内の宿泊ホテルに置いて、タクシーで20分程の会場に向かいました。

式典開始は14時からとあって、私達が到着した13時過ぎ頃には、すでに会場は1,000人を超すであろうと思う女性会員で埋め尽くされていました。開式迄の短い時間を利用して、物産展（お土産売り場）のブースをのぞいてみたが、人気の地場産品のブースはどこも長蛇の列ができており、賑やかな、ごった返しの中に混じり合う勇氣は、私には持ち合わせていないと思い、諦める事とした。

外に出ると、式典の行われる大ホール迄の通路を利用して、「税に関する絵はがきコンクール」に応募した20万件を超える作品の中より選ばれた、受賞作品のパネル展示があり、どれもこれも小学生とは思えぬ力作ぶりで、しばしその場に釘付けされて見入ってしまった。

どのような租税教室や教育環境下でこの優れた作品たちが生まれたのであろうか、興味を持つと同時につくづく感心しました。子どもならではの表現力や発想力、そして伝達能力。どれをとっても素晴らしい。

毎年、この時期に思う事ではあるが、これらの優秀なる作品は、国税庁の関係各位の皆さんは勿論ではあるが、政府高官、特に財務省大臣たちの目に触れる機会はあるのだろうかと思ふ。

この日本国の未来を担う子ども達の、税に対する純真無垢な真っ直ぐな理解力を目の当りにすると、先頃、新聞紙上でも物議を醸している老後の年金問題と、金融庁の「2,000万円」報告書の報道は、子ども達にどう説明をすれば良いのか、情けなくなるのは私の考え過ぎであらうか。

私達法人会が、今後、全国各地の租税教室等で繰り広げられて行くであろう、税の啓発運動にも、支障を来さないものかと、いささかの危惧を感じる。

さて、「煌めく女性の輪ー富山から未来へー」とタイトルのついた大会が、定刻14時に開始された。

第1部では、「わが映画人生」と題して、俳優でもあり、昨今は映画監督も手がけている 奥田瑛二氏の記念講演で幕を開けました。

奥田氏の長女、安藤桃子氏は、映画監督として活躍しているが、高知県への移住者としても、私達高知県民人には馴染みの深い人であり、又、最近迄、NHK朝ドラのヒロイン役として人気を博した、安藤サクラさんは、奥田氏の次女であるという事は、誰もが周知の事でしょう。

奥田氏は、妻である安藤和津さんとの出逢いと馴れ初め、結婚に至るまでの話や、又、ご自身の俳優業という生業を決意するに至った過程を、数々のエピソードを交えて、ユーモアあふれる話術でもって話されたが、内容については割愛させていただきます。

続いて、第2部の式典では、国税庁長官をはじめとする、錚々たるご来賓の方々の列席の中、一連のセレモニーが粛々ととり行われていきました。

全法連女性部会連絡協議会の若松恵美子会長は、「私達法人会女性部会会員は、公益性の高い活動に積極的に取り組み、社会貢献するほか、女性経営者として、地域経済の活性化、発展に今まで以上に寄与していく事が重要であり、又、会員が「活動が楽しい」と感じられるよう、勇気、愛情、信頼、希望を持って、更なる活動の充実を目指していきたい」とあいさつされました。

昨年の山梨大会でも感じた事ではありますが、若松会長の凛とした知性溢れる風貌、容姿は、身が引き締まり、背筋のピンとなるような思いを与えて下さる、何かオーラのようなものがあり、まさに我々女性会員の目指すところの鑑のような存在ではないでしょうか。

続いて、富山県法人会連合会女性部会連絡協議会の錦谷会長のあいさつでは、富山の春の名物や観光名所の説明、案内があり、この時期なら、まだ残雪のある(3,000m級)の山々の連なる立山連峰の絶景を、生憎の天候のため、見られなかった事が、何とも残念でならなかった。

そして、富山県が取り組んでいる租税教育に軸足を置いた活動事例が、大型スクリーンにてビデオ放映を通して発表があり、改めて、税の啓発運動や、租税教育の大切さ、意義深さが、この日参加した我々を含めて全国1,500人余りの女性会員の再認識に繋がっていったのではないだろうか。

第3部の懇親会は、会場を別のホテルに移して、円卓を囲んでの立食形式で行われ、ご当地名物の旬のホタルイカやシロエビ等が振る舞われ、色彩豊かなお料理がテーブルに並び、参加人数の割にはテーブル数の限られた、少し窮屈さを感じるパーティではあったが、和やかな交流の場となっていました。

こうして、私達、安芸法人会から参加した3名は、無事、富山研修を修了。翌日は、雨天のため、エクスカッションにも参加せず、往路を同じ羽田経由で帰途に着いたのであったが、富山から羽田、羽田から高知への2便の飛行機で、偶然にも奥田瑛二氏の長女、安藤桃子氏と同便に乗り合わせ、親しく会話させてもらった事が、思わぬ土産話になった事を追記しておきます。